

SDGs 達成に向けた札幌宣言の実行

# プラスチック資源循環に向けた 行動変容と新たな価値の創造

2026

3/18 水 13:00~17:00

会場

京都大学吉田キャンパス+オンライン  
大会2日目午後 G会場  
(吉田南総合館 北棟2階 共北28)

現代社会において欠かせないプラスチックは、今もなお使い捨てが主流であり、様々な環境問題を引き起こしています。本シンポジウムでは、プラスチックの資源循環に向けた契機を探るべく、過去から現在に至るまで、プラスチックに関わる産業界の取り組みをご紹介します。さらに、企業と消費者の行動変容に向けて、ワークショップ形式で資源循環に資する価値を議論します。

## プログラム

13:00~13:10

趣旨説明

藤岡沙都子 / 慶應義塾大学

13:10~13:40

招待講演

### カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet® の開発

Keywords

Biodegradable polymers / Polyhydroxyalkanoates (PHAs) / Carbon cycle



福田竜司  
株式会社カネカ

カネカ生分解性バイオポリマー Green Planetは植物油を原料として微生物が産生するバイオマス由来のポリマーである。土中、海水中、嫌気環境などの環境下で生分解性を示す。Green Planetの特徴と市場開発状況、Green Planetを利用した炭素資源循環の取り組みを紹介する。

13:40~14:10

招待講演

### 消費財のプラスチック削減循環の日本型イニシアティブ ~消費者の行動変容の30年間

Keywords

Regulatory science / Circular economy system / Society 5.0



藤井健吉  
花王株式会社

Society 5.0時代の循環型社会実現には、材料設計から回収・再資源化までの一貫した設計と社会適合性が不可欠である。花王の30年にわたるプラスチック削減・リサイクルの社会実装と消費者行動変容を事例に、責任ある化学物質管理とサステナビリティ評価、政策科学としてのレギュラトリーサイエンスが果たす役割と展望を論じる。

14:10~14:40

依頼講演

### 農業廃棄物を活用したプラスチック代替素材の開発と 社会実装に向けた取り組み

Keywords

Plastic alternative / Agricultural waste / Circular economy



山本光夫  
東京大学大学院

講演者らは、有効活用が望まれる農業廃棄物由来のプラスチック代替素材（バイオコンポジット、紙）を開発し、エジプトでの海洋プラスチックごみ削減とサーキュラーエコノミーの同時実現に向けた国際共同研究を行っている。本講演では、エジプトとの共同プロジェクトに至った経緯やプロジェクト概要や現状について紹介する。

14:40~15:00

グループ討議の説明

宮武正人 / レゾナック・ホールディングス

15:00~16:00

参加型グループ討議

16:00~16:30

グループ討議まとめ発表

学生アシスタント

16:30~16:40

シンポジウムのまとめ

宮武正人 / レゾナック・ホールディングス

